

(06142129) 富士ソフト企画株式会社 様 2021年度版(2020年度実績分) 健康スコアリングレポート

* 本レポートは、2018~2020年度のデータに基づいて作成しています。

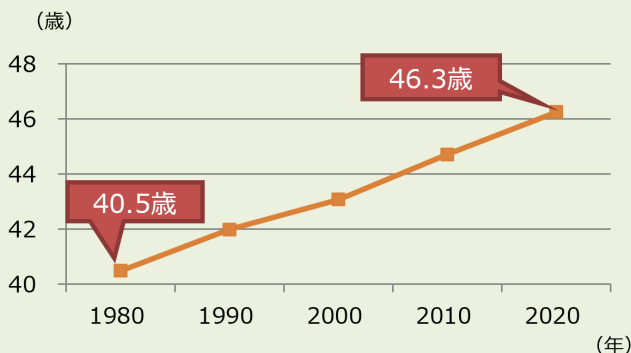
- 我が国は既に人口減少、超高齢化社会に突入し、深刻化する人手不足に加え、従業員の平均年齢の上昇による健康リスクの増大、生産性低下といった構造的課題に直面しています。
- 従業員がいつまでも元気で働き続けられる環境づくり、予防・健康づくりなくして、企業における持続的成長の実現は困難です。
- そのためには、健保組合と事業主(企業)が連携し、一体となって予防・健康づくりの取組を進める必要があります。
- 本レポートでは、事業主と健保組合のコミュニケーションの一助となるよう、予防・健康づくりの取組状況や健康状況等を可視化しています。経営者においては、企業の財産である従業員等の健康を守るために、健保組合と連携した従業員等の予防・健康づくりの取組のさらなる推進にご活用ください。なお、健康状況等に関する詳細情報は健保組合にお問い合わせください。

健保組合の保健事業が健康課題の解決策に！



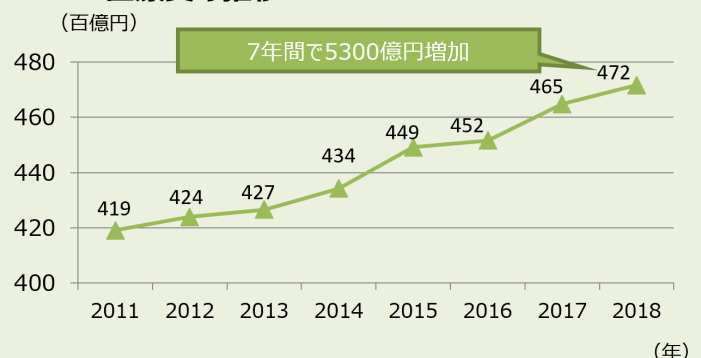
少子高齢化の進展や定年延長といった社会環境の変化に伴い、労働者の平均年齢の上昇に加えて、健保組合における医療費も増加を続けています。こうした中で、従業員等に対する予防・健康づくりの取組をより一層進めるために、事業主と健保組合による協働が求められています。

■ 就業者の平均年齢の推移



※総務省統計局「労働力調査」に基づく推計(5歳階級の中央の年齢に就業者数を乗じた値を積み上げ、全就業者数で除す方法で算出)。

■ 医療費の推移



※厚生労働省「医療保険に関する基礎資料～平成30年度の医療費等の状況～」に基づき作成。医療費は全健保組合の総額。

【本レポートで使用する用語の定義】

- 「特定健診」：特定健康診査 / 「業態」：事業所における業態(42分類) /
- 「全事業所」：特定健診の対象となる被保険者数50名以上の事業所 /
- 「所属保険者」：所属保険者の平均は、被保険者数50名未満の事業所も含めて算出する /
- 「所属保険者の全事業所平均」：特定健診の対象となる被保険者数50名以上の事業所のみで算出する平均

貴事業所の業態は以下で表示

情報通信業

貴事業所の予防・健康づくりの取組状況と健康状況の概要

【貴事業所の特定健診・特定保健指導の実施状況】

特定健診・特定保健指導



業態別順位

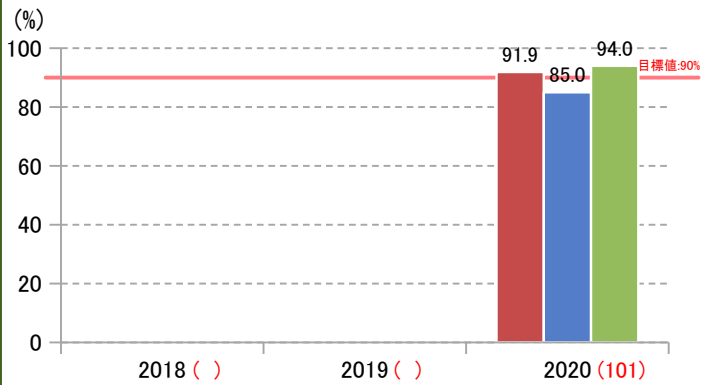
62位 / 2,317事業所

特定健診の実施率



1ランクUPまで(*1)

あと 1人



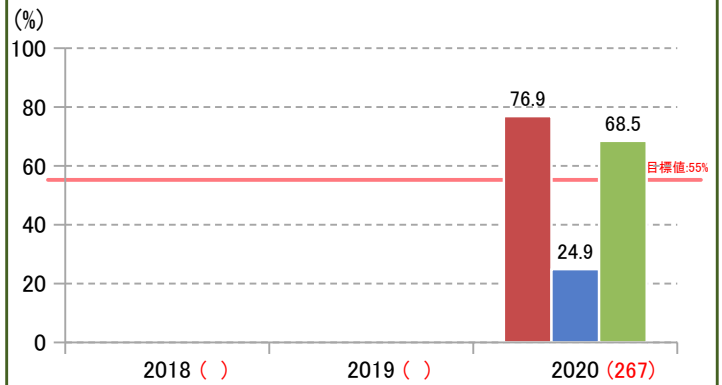
特定健診の実施率	2018	2019	2020
貴事業所			91.9%
			1,087位 / 2,323
業態平均			85.0%
所属保険者			94.0%

特定保健指導の実施率



1ランクUPまで(*1)

最上位です



特定保健指導の実施率	2018	2019	2020
貴事業所			76.9%
			61位 / 2,317
業態平均			24.9%
所属保険者			68.5%

※ 目標値は、第3期(2018~2023年度)特定健康診査等実施計画期間における所属する保険者の種別目標。
 ※ 順位は、業態ごとに事業所のスコアの高い順にランキング。
 ※ ()内の数値は、全事業所平均を100とした際の貴事業所の相対値。
 ※ なお、被扶養者(家族)を含む加入者全体の目標である。

■ 貴事業所 ■ 業態平均 ■ 所属保険者

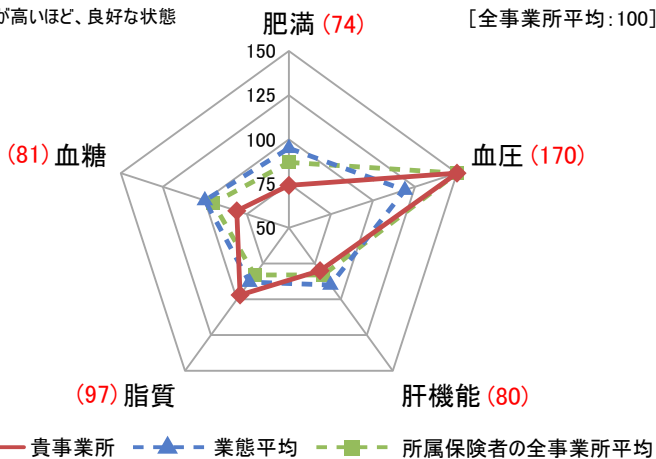
(*1) "ランクUP"は、5段階評価のランクを1つ上げるための目安(実施人数)を記載

【貴事業所の健康状況】生活習慣病リスク保有者の割合

健康状況



*数値が高いほど、良好な状態

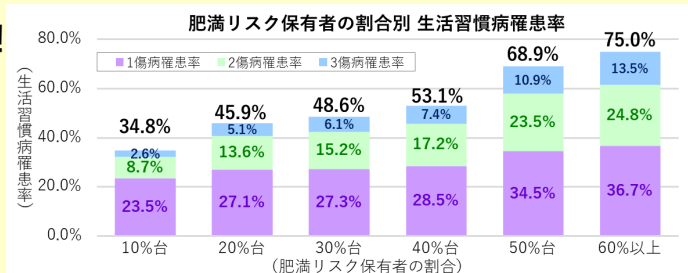


リスク	良好 ←	中央値と同程度	→ 不良
肥満リスク	😊	😊	😞
血圧リスク	😄	😊	😞
肝機能リスク	😊	😊	😞
脂質リスク	😊	😊	😞
血糖リスク	😊	😊	😞

【参考】肥満リスクを下げ、生活習慣病を予防しましょう！

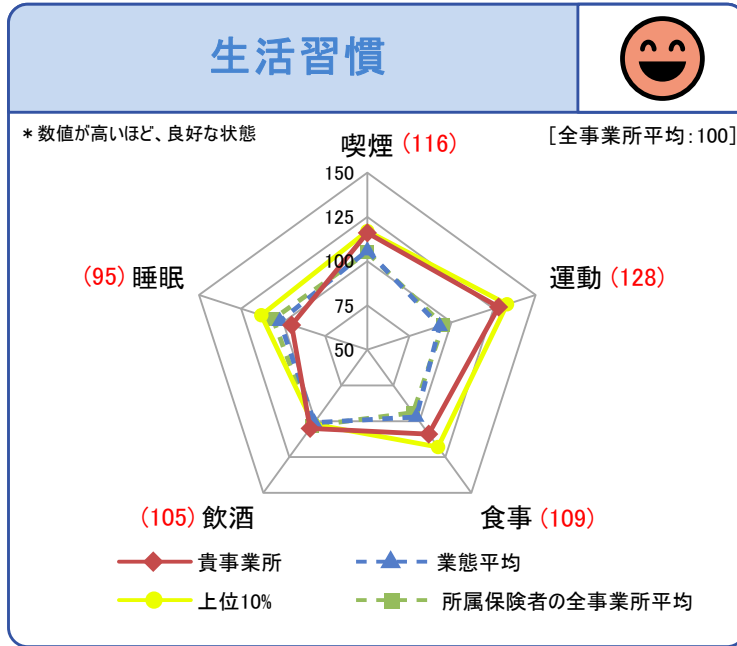
代表的な生活習慣病といわれる高血圧症・脂質異常症・糖尿病について、電子レセプトから罹患率を推計したところ、肥満リスク保有者の割合が高い組合ほど、生活習慣病の罹患率が高い傾向がみられます。

肥満リスクを下げ、生活習慣病を予防しましょう。



貴事業所の生活習慣

【貴事業所の生活習慣】適正な生活習慣を有する者の割合



リスク	良好 ←	中央値と 同程度			→ 不良	ランクUPまで (*1)
喫煙習慣 リスク						最上位です
運動習慣 リスク						最上位です
食事習慣 リスク						あと 4人
飲酒習慣 リスク						最上位です
睡眠習慣 リスク						あと 1人

※ 2020年度に特定健診を受診した者のみのデータを集計。
 ※ 生活習慣データについては、一部任意項目であるため、事業所が保有しているデータのみで構成。
 ※ 上位10%は業態ごとの「総合スコア」が上位10%に入る事業所の各項目の平均値を表す。ただし、業態内の事業所数が20以下の場合には、全事業所の「総合スコア」上位10%の平均値を表示。

(*1) “ランクUP”は、5段階評価のランクを1つ上げるための目安 (リスク対象者を減らす人数) を記載

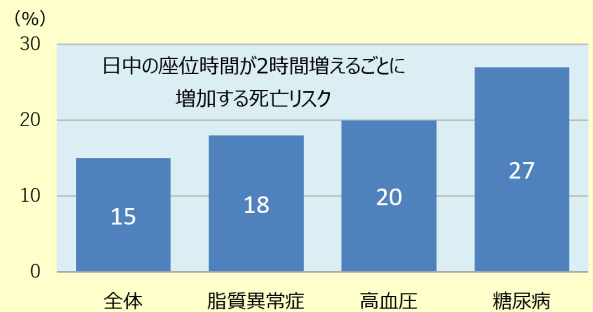
健康状況の経年変化		2018	2019	2020
肥満	貴事業所			74
	業態平均			95
血圧	貴事業所			170
	業態平均			119
肝機能	貴事業所			80
	業態平均			90
脂質	貴事業所			97
	業態平均			88
血糖	貴事業所			81
	業態平均			100

生活習慣の経年変化		2018	2019	2020
喫煙	貴事業所			116
	業態平均			106
	上位10%			117
運動	貴事業所			128
	業態平均			93
	上位10%			133
食事	貴事業所			109
	業態平均			97
	上位10%			118
飲酒	貴事業所			105
	業態平均			101
	上位10%			102
睡眠	貴事業所			95
	業態平均			102
	上位10%			113

【参考】座りすぎは死亡リスクが高まる！

日中の座位時間が2時間増えるごとに死亡リスクが15%高まると言われています。糖尿病の人の場合は27%も高まると言われています。新型コロナウイルス感染拡大によりテレワークとなっている場合でも、無理せず少しずつ体を動かす機会を増やしていきましょう。

出典：京都府立医科大学 Effect of Underlying Cardiometabolic Diseases on the Association Between Sedentary Time and All-Cause Mortality in a Large Japanese Population: A Cohort Analysis Based on the J-MICC Study, スポーツ庁「Withコロナ時代に運動不足による健康二次被害を予防するために」



全事業所平均を100とした際の各事業所の相対値を高い順に5等分し、「良好 」から「不良 」の5段階で表記しています。

(注) 【本レポートにおけるデータ対象】
 ・特定健診(健康状況・生活習慣)：40歳～74歳の被保険者。
 ・データが存在しない場合、非表示。計算不能の場合「-」を表示。
 健康状況・生活習慣は、対象となる被保険者数50名未満の場合「×」を表示。

健康スコアリングレポート
2021年度版

厚生労働省 日本健康会議 経済産業省
